

令和元(2019)年度事業評価について

(2019年4月から2020年3月)

1. 令和元(2019)年度の外部評価員による事業評価は、次の通りであった。

(1) 外部評価員 5名

伊藤 制子氏	東邦音楽大学講師・音楽学
稲村 太郎 氏	公益財団法人セゾン文化財団 プログラムオフィサー
恵良 隆二 氏	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 専務理事
桂 真菜 氏	舞踊・演劇評論家、 早稲田大学演劇博物館招聘研究員
佐藤 良子氏	一般財団法人地域創造 芸術環境部 主事

(2) 評価方法

○外部評価員が各館主催事業の現地見学を実施し、事業評価シート（個票）に個別事業の評価を記述。

○年度を通した総合的な評価として、個別事業評価等を参考に事業評価シート（総合）に評価を記述。その書面評価に加えて、外部評価員と職員とが出席する「事業評価会議」を開催し、意見交換や議論の上、当該年度の事業評価を総括。

(3) 評価結果（概略）

○個別事業評価数（カッコ内は、H30）

県民ホール	7事業 18シート（11事業 26シート）
芸術劇場	10事業 19シート（24事業 49シート）
音楽堂	8事業 12シート（4事業 11シート）
計（延べ）	25事業 49シート（39事業 86シート）

○事業評価シート（総合）

提出 5名提出

○事業評価会議

令和2(2020)年9月2日(水)

出席評価員 5名出席

出席財団職員 副理事長、専務理事、事務局長、県民ホール館長兼芸術劇場館長、音楽堂館長、音楽事業部長、芸術劇場事業部長、担当職員、事務局

※なお、今年度の事業評価会議は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、ウェブを併用して実施。一部職員については、ウェブ参加とした。

(4) 評価結果(概要)

1. 令和元(2019)年度重点テーマ「来館者サービス」について

個別の目標や施策	指定管理提案への対応を含め、各館の来館者サービスの向上の成果を検証し、次期の指定管理提案のアピールに繋げる。 (利用者サービス全般(清掃、警備、受付案内、修繕を含む)、チケットかながわにおける広報販売促進、鑑賞空間の整備(外国語対応、障がい者向け対応、子育て世代や子供に対する配慮、館内サービス等)、バリアフリー対応、安全対策)
<p>○来館者の多様なニーズに対応するユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮したサービスの向上が、ハード面からは改修工事、ソフト面からは主催事業や人材育成事業を通して積極的に行われている点は高く評価できる。</p> <p>○自己評価を踏まえて、各館ともに施設に付随する課題を認識し、今後への取り組みを共有していることは評価する。広報面での気づきは、ぜひ、財団全体の活動として取り組んで欲しい。</p> <p>○チラシでは難しい、上演時間の告知等はTwitterやFacebookを効果的に使って情報発信をして欲しい。</p> <p>○来館者サービスの評価については、外部評価員からの評価だけでなく、来館者を対象とした調査の実施等、客観的なデータの収集や分析が行われることが望まれる。</p> <p>○バリアフリーの推進は結果的に観客の層と数を増やす掘り起こしにもなるだろう。3館が多様な観客をホスピタリティあふれる空間に受け入れるための工夫を共有し、成果を集積することで、利用者や観客のネットワークを築き、プラットフォームとなる各館の存在意義を高める。</p> <p>○財団が実施している高齢者、外国人、障がいのある人たちへの取組みと、実際に来館する可能性のある(あるいは来館して欲しい)人たちを想定し、適切に対応できているかシュミレーションする必要があると考える。</p> <p>○来館者サービスにおいて、目標と成果の指標が不明確であるため、今後の改善を希望する。</p>	

2. 芸術文化事業

(1) 3館合同プロジェクト：オープンシアター2019

個別の目標や施策	「オープンシアター」では、横浜都心臨海部が1年の中で最も賑わう「横浜開港祭」の時期に合わせて、同地域に点在する3館を面的にとらえ、施設を街へと開く事業展開で県民に向けた芸術文化の普及啓発や多彩な芸術との出会いを提示するとともに、外国人や障がい者等への鑑賞支援を推進する。
<ul style="list-style-type: none">○オープンシアターはあくまでも子供のための事業ではあるが、次世代を意識したアプローチを考える時に、大人と子供が両方で参加できるような企画があってもおもしろいと思われる。○オープンシアターは週末の日中の時間帯を中心とするプログラムで、横浜周辺地域を散策する人々のアクセスが良く、イベントとして賑わいのある企画であった。○3館一体ではなくても、ホールや劇場をオープン＝開く試みは、手法は変わっても継続を検討して欲しい。○3館一体で同事業を実施することは広報面では効果的であったと思われるが、プログラム全体として3館一体で実施する成果や効果が見えにくい部分もあったと思われる。○子供たちへの訴求には学校との連携が大切だが、3館の集客圏となる横浜市域とその周辺エリアとの関係づくりが重要だと思う。在住外国人への訴求も同様。○オープンシアターはもっと活用できる気がする。県民ホールのバレエ公演の質の高さに比べ、手話ワークショップは寂しい印象だった。場所や環境の作り方でもっと素敵な会になる可能性があると思う。○3館同時開催が昨年度で最後（今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止）というのは寂しい。オープンシアターの考え方自体は社会連携ポータル（注：令和3年度より予定している新規事業）で引継ぎ、ターゲットを絞るのではなく、様々な方々に来ていただくという機会は今後も設けて頂きたい。	

(2) 芸術文化事業

<p>県民ホール文化事業</p>	<p>個別の目標や施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な水準を満たす多彩で良質な芸術文化を創造するとともに、県民により多くの鑑賞機会を提供する。 ・芸術総監督のディレクションによる新しい表現の追求と意欲的な芸術文化を創造発信する。
<p>○オペラ公演の「カルメン」は新機軸ではあったが、賛否両論ある公演だった。冒険的な異色の演出などは他公演に任せて、いっそのこと「県民ホールは良質な古典的演出を見せませす」という姿勢を貫いたほうが良いと思われる。</p> <p>○一柳慧芸術総監督プロデュースの「フラックス弦楽四重奏団」は個々の演奏者の独創的な感性と圧倒的な演奏力で観客を魅了する完成度の高いコンサートであった。集客面は物足りない結果ではあったが、本企画は日本の現代音楽とポスト・クラシカルをインキュベーションする場として重要な役割を果たしていると推測される。</p> <p>○県域全体を意識した活動は意欲的で評価する。県政の理解を得て県内自治体との協働の努力に期待している。</p> <p>○より多くの人々に芸術鑑賞の機会を提供するためには、催しの魅力をしっかり伝え、人々の来館意欲を高める広報が必要であろう。</p> <p>○オペラ公演と同時期に「やなぎみわ展」が行われていたが、来場者が少なく、オペラ公演への来場者への周知が十分になされておらず、広報の工夫が必要である。</p>		
<p>芸術劇場</p>	<p>個別の目標や施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術の新たな表現の可能性を探る試みを発信し、芸術文化の発展に貢献する。 ・舞台芸術の未来を担う創造者や担い手と協働し、芸術文化に関わる人材の発掘、育成を図る。
<p>○白井晃芸術監督を中心に、新進から中堅、実績のある演出家、振付家を起用し、実験的な作品から幅広い観客層に訴求する作品をプロデュースし、国内の現代演劇、コンテンポラリーダンスに影響を与える創造活動が行われていることが評価できる。</p> <p>○演劇と美術と音楽とがさらに連携していく企画があればおもしろいと思われる。現在もそうした企画はあるが、音楽と演劇はまだ断絶があり、オペラと演劇の客層も異なっているように感じられるので、そのあたりの強化があってもよいのではないか。</p> <p>○キッズ事業の継続は、一定のポジションを確保したと感じる。県政との連携の中で、県域への浸透の試みは重要であろう。</p> <p>○インターンは募集の仕組みが明確で、定期的に公募している点は評価できる。劇場運営でも自主制作事業に参加することができれば、応募者側への大きなインセンティブになるのではないか。</p>		
<p>音楽堂</p>	<p>個別の目標や施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開館 65 周年、改修工事リニューアルオープンを機に、県立音楽堂のプレゼンスを再び高める。 ・「優れた音響」「音楽ホールとしての伝統」「文化遺産的建築」という、音楽堂が持つ優れた資産を最大限に活用する。

	<p>○音楽堂はクラシック音楽ファンにとって、非常に優れたバロックオペラを上演する劇場として高い評価を受けており、今後もぜひ継続して欲しい。</p> <p>○ヴィルトゥオーゾ・シリーズでは、新進の演奏家や実績のある歌手、また、音楽史に残る名手を招へいする公演等、多角的な視点でプログラムされ、音楽堂のビジョンを体現する企画として評価できる。</p> <p>○坂が多く、観客には中高年層の方が多いことから、主催公演での桜木町駅からの無料バスの工夫は大変良い。</p> <p>○3館の中で唯一、音楽による小編成のアウトリーチ活動を行っているが、県立館としてのリーダーシップをもって、県域に波及するよう積極的な取組が望まれる。</p>
--	--

3. 施設維持管理運営事業

県民ホール	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な会場環境の創出のための適切な施設の維持管理 ・県民自らが様々な文化活動を行うための快適な場・サービスを提供する。 ・施設のバリアフリー、ユニバーサルデザインの採用等、県民サービスの観点から時代に即した施設整備を行っていく。 ・県民のニーズに応える貸館事業 ・国内外からの来場者の増加に対応すべく、催し物情報の提供や館広報の充実を図っていく。
		<p>○（施設利用率に関して）周辺のホールや劇場等の競合の動向と県民ホールの状況について定期的に分析を行い、これまでのニーズやこれからのニーズを把握することが望まれる。</p> <p>○県民ホールは建物としての魅力は少ないが、バリアフリー化の取組みや様々な工夫は、お客様の信頼感に繋がっていると思う。</p> <p>○防災意識を高めるような避難訓練を含めたコンサートなどは定期的に取り入れていかれたよいのではないか。</p> <p>○ホールの様々な使用方法を主催事業等を通じて提示し、県民ホールの利点をアピールするとともに、利用者にコロナ禍の中でもいろいろな使い方を検討してもらうことも重要と考える。</p>
芸術劇場	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術の新たな表現の可能性を探る試みを発信し、芸術文化の発展に貢献する。 ・舞台芸術の未来を担う創造者や担い手と協働し、芸術文化に関わる人材の発掘、育成を図る。
		<p>○施設利用率はホール、大スタジオともに堅調で、全国の都道府県施設との平均稼働率（利用率）と比べて極めて高い水準である。特に、ホールと大スタジオを戦略的に使い分けている点は評価できる。</p> <p>○長期貸館を行っていた特定の団体のみ頼るのはリスクがあるので、シュミレーションはしておいたほうが良いのではないか。</p> <p>○劇場サイトに日本語を解さない層への情報サービスが不足している。</p>
音楽堂	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の再開館に向けて、適切な開館準備を行う。また、再開館後は、利用者・来館者の満足度向上を図る。 ・開館 65 周年の記念事業やキャンペーン等を実施し、音楽堂のネ

		<p>ームバリューの向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽堂の建築物としての魅力を発信していくため、新たにボランティアグループと連携した定期的な建築見学ツアーの実施に取り組む。 ・県による紅葉ヶ丘景観改善工事に伴い、紅葉ヶ丘地区の再活性化に取り組む。
	<p>○ジャンル別の利用状況では、クラシック系以外の音楽の利用が少ないが、新たな音楽ジャンルの利用の可能性、また、紅葉ヶ丘文化ゾーンでのジャンルを超えた他の施設との連携による相乗効果など、新たな可能性に期待したい。</p> <p>○2019年6月初頭より20年3月末まで実施された「リニューアル記念の寄付募集」(『すべての人のための音楽堂』キャンペーン)は、「障がい者や高齢者が、音楽堂でのコンサートを楽しむ設備の拡充」と目的が明確で大変好印象であった。</p> <p>○紅葉ヶ丘文化ゾーン一帯の活性化の取組はぜひ発展させていただきたいが、横浜全体の観光スポットのひとつとしてのアピールの可能性も探ることはできないだろうか。</p>	

4. 本部事業、その他事業

芸術文化に関する情報の収集提供	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌「神奈川芸術プレス」を年6回発行し、芸術文化に関する情報を発信し、幅広い県民が芸術文化に親しみを感じられるよう内容を充実する。 ・最新号からバックナンバーまでのWeb版「神奈川芸術プレス」を公開し、SNSと連動してインターネット上でも広く情報を発信する。
	<p>○「神奈川芸術プレス」がウェブとリンクしたことで、イベントの情報発信だけでなく、アーカイブとしての価値が意識される編集を期待したい。</p> <p>○3館それぞれのSNSのアカウントがあるが、連携して各催しの周知を図ることが必要ではないか。また、ホールやアーティストが身近に感じられるよう内容を工夫すべき。</p>	
チケットかながわ、かながわメンバーズの運営	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・チケットかながわの安定した運営及び団体販売等の促進 ・インターネット予約システムが安定稼働するよう整備維持するとともに、新機能を積極的に導入し、利用者の一層の利便性向上を図る。 ・ウェブサイトの多言語化に取り組み、インバウンド対応を推進する。
	○かながわメンバーズの会員増は評価する。	
資金調達活動	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> ・資金調達活動として、文化庁等からの補助金・助成金の確保に積極的に努める。 ・賛助会員制度(寄付金)の新規会員獲得のため、法人、個人の方々に向け方策を実施する。 ・インターネットを活用した寄付の受け入れを推進し拡大を図る。 ・個別協賛金や、広告出稿等の幅広い支援を働きかける
	○国の補助金では、文化庁の劇場・音楽堂等機能強化推進事業の「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業(全国の採択件数:16件)」及び「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」に採択されるなど、国内のトップレベルの劇場・音楽堂、そして地域の中核的役割を担う音楽堂として評価されていることは高く評価できる。	

○賛助会員特典に関して、各館と連携することで様々な企画が検討できるのではないか。
--

全体
○年度当初に、事業方針等を聞かせて頂く機会があると、評価をしやすい。 ○神奈川県内での公演の巡回だけでなく、コロナ禍において、県内市町村への指導的役割やノウハウの提供ということ、神奈川を代表する3館という立場から取り組んで欲しい。